

Q10 佐世保のダムは古いけど大丈夫？

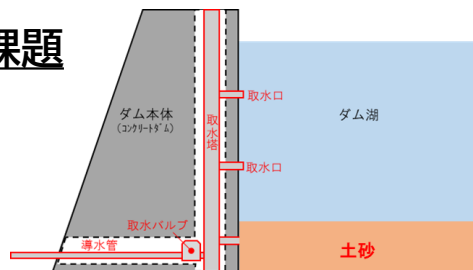
A 老朽化が進んでおり、改修は喫緊の課題ですが、水源不足の現状では抜本的対策ができない状況です。

既存ダムの老朽化対策は喫緊の課題

現在本市が運用しているダムは、戦前に旧海軍が建設したものも多く、著しく老朽化が進んでいます。

特にダムに内蔵されている取水設備の老朽化が激しく、設備の更新や改修が喫緊の課題となっています。

さらに、長年、ダム上流から流れ込んできた土砂の堆積が進んでおり、本来は水が貯まるべき容量（有効貯水量）を土砂が侵食しており、その除去も必要です。



	建設主体	建築年次	経過年数	法定耐用年数	
				ダム本体	取水設備
山の田ダム	旧海軍	明治４０年	１１７年	６０年	４０年
転石ダム	旧海軍	昭和２年	９７年	８０年	
菰田ダム	佐世保市	昭和１５年	８４年		
相当ダム	旧海軍	昭和１９年	８０年		
川谷ダム	佐世保市	昭和３０年	６９年		
下の原ダム	佐世保市	昭和４３年	５６年		



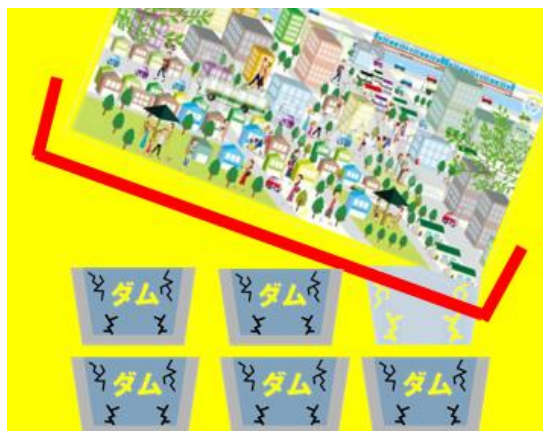
堆積土砂によって失われている貯水容量の状況

- ・山の田ダム … 13.2% ・相当ダム … 19.1%
- ・菰田ダム … 10.8% ・川谷ダム … 9.3%
- ・転石ダム … 7.0%

水源不足の現状では着手困難

ダム内部の取水設備の工事や、堆積土砂の浚渫作業を行うためには、一度、ダムの水を空にして、数年間、ダムの運用を休止しなければなりません。

2年に一度は渇水危機に直面している中では、ひとつでもダムを休止する余裕がなく、水源不足の現状では、対策に着手することが難しい状況です。



今現在の水道供給を維持するためにも、水源不足を解消し、老朽ダムの対策に早期に着手する必要があります。